

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	かわさきくにみやまけん 川崎国見山線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧池田町・西祖谷山村)																	
事業概要	【目的】 本路線は三好市山城町下川の国道32号を起点とし、同市池田町川崎地区を經由して同市西祖谷山村尾井ノ内の市道尾井ノ内後山線を終点とする林道で、この林道の開設により、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進するとともに、木材等の林産物運搬距離の短縮や災害時の迂回路として利用する等、森林整備・林業生産等の促進と生活基盤の改善を図ることを目的としている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 35%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">2,717ha</td> <td style="width: 35%;">[人工林面積:1,790ha (66%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>421戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0～5.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>20,840m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 13,421m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>6,400,000千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,341,058千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>昭和61年度～平成36年度</td> <td>(39年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	2,717ha	[人工林面積:1,790ha (66%)]	受益戸数(森林所有者数)	421戸		幅員	4.0～5.0m		計画延長	20,840m	(うち平成25年度末の供用予定延長 13,421m)	総事業費	6,400,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,341,058千円)	事業予定期間	昭和61年度～平成36年度
利用区域面積	2,717ha	[人工林面積:1,790ha (66%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	421戸																			
幅員	4.0～5.0m																			
計画延長	20,840m	(うち平成25年度末の供用予定延長 13,421m)																		
総事業費	6,400,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,341,058千円)																		
事業予定期間	昭和61年度～平成36年度	(39年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 起点側池田町では7,444m、終点側西祖谷山村で5,677m(計13,421m)が供用されている。 西祖谷山工区において、平成23年度から下流域の集落と濁水問題について交渉を行っていたため工事が遅れることとなり平成25年度末の進捗率は64%となっている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:64.4%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 西祖谷山村側の供用開始した区間では、県営林素材生産事業において、木材生産量増に向け森林作業道の作設後、森林整備(列状間伐)を行い間伐材の搬出が行われている。今後も引き続き森林整備の計画があり更なる森林整備の促進が期待される。 また、池田町側でも間伐等森林整備対策事業で施工した作業道(基幹作業道正木線)に連絡したことから、間伐材等林産物の搬出が行われている。このことから、平成21年度から平成24年度までに延べ115haの森林整備を実施している。																			
	【社会経済情勢の変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような背景の中、当市内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。																			
【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																				
【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、昭和61年度から平成24年度までに延べ951haの森林整備を実施している。今後、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.44 (国の採択基準は1.0以上)</div>																				
【受益者・関係機関の意向】 地元三好市をはじめ森林所有者等も、地域林業及び地域の活性化及び緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから早期完成を強く望んでいる。																				
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				